

# PAG-ASA

JFC 奨学金基金報告

パグアサー夢・希望  
2015年12月

## マリガヤインターンズワークショップ「Imagine Your Future」

2015年9月13日日曜日 10:00-16:00、マリガヤハスウにて「Imagine Your Future」というワークショップを行いました。参加者はJFCの男の子5名と女の子4名の9名で年齢は9歳から19歳の子供たちと、そのお母さん7名、妹や弟2名の計18名です。9名の子供の中には4名の奨学生も含まれます。また、午後のセッションの将来の職業を考えるにあたるロールモデルになるフィリピン人をお招きました。

今回のワークショップのコンセプトは、「Imagine Your future」です。JFCが将来の目標を明確にし、その目標達成の為に、一年後はどのような状態でいたいのか、また明日からどのようなアクションを実施すべきかを具体的に自覚している状態をつくるということを目的としています。その一つの例として、国籍を取得し、日本への就労が目的化しやすい子どもたちに対して国籍取得後の日本での労働に関する法律をシェアし、日本人としてフィリピン人として誇りを持って生きるための道を探る一歩になるようなワークショップを提供するという意図があります。

このワークショップの背景には、現状として日本国籍を取得した後、日本に行ったはいいが専門知識がない、日本語が話せないことによって、結局肉体労働や危険が伴う仕事に従事するケースがあると聞き、日本国籍取得後について思考してほしいと考えたからです。また、以前JFCと話をしたところ、日本で働きたいが、職種は何でもいい言っていたことに違和感を感じたためです。それに対して私たちは①JFCが日本の労働状況と最低限の法律知識を得ている状態②JFCが将来の夢を明確にし、その実現のために明日から何をすべきか理解している状態。という2つの理想状態を目指してワークショップを行いました。

まずは「夢設定」として、JFC達にグループに分かれてもらい、今自分が持っている夢を正直に語ってもらいました。彼らが持つ夢を聞くことができ良かったです。そして、「日本の現実」というセッションでは、JFCやお母さんたちに、実際に悪徳エージェンシーに利用され、厳しい労働環境に置かれたJFCの実例を紹介しつつ、日本で外国人が働くことの困難さを再認識してもらいました。その後、実例の二の舞にならないように法律知識を身に付けて



てもらおうべく、10個のショート・ドラマを通じて日本の労働法について学んでもらいました。また、1つのショート・ドラマにつき一つの解説をいれ、ドラマの中の雇用主の対応が適法なのか、考えたうえで手を挙げて参加してもらいました。JFCたちもですが、特にお母さん達が真剣に聞いてくれた事がうれしかったです。母子とも日本に行きたいと考えている割合が高く、みんな日本について強い興味があることが分かりました。

午前のセッション後、お母さんたちに栄養について学んでもらおうと、フィリピンで手に入る食材を使って作った栄養バランスのいい食事を作りました。フィリピンでは日本ほど栄養バランスが日々の食事において考慮されておらず、JFCも栄養不足だと感じていました。今回のワークショップを通じて少しでもJFCやお母さん方に栄養の知識をつけてもらえた点は非常によかったと思います。

午後からは、「職業紹介」として、JFCたちに自分たちがどのような仕事に適性があるのかを知ってもらい、自分の夢セッションで話した自分の夢が本当に将来自分がしたいことなのかを再考する材料を提供しました。具体的にはセッションを通じてJFCたちに二つの作業をしてもらいました。1つ目は適職診断シートを埋めてもらうこと、2つ目はその診断結果シートを見てもらうことです。前者は4問の、性格に関する質問を選択肢AまたはBから選んでもらいました。次に、自分の診断結果をもとに、自分がどのような職場環境を好む傾向があるのか、どのような仕事に適性があるのかを知ってもらいました。そして、上記の診断結果をもとに、世の中には自分たちの知らない仕事があるということを知ってもらうと共に、自分がワークショップの冒頭で述べた夢は本当に自分がしたいことなのかを、再考してもらいました。そのうえで、自分たちの夢を達成すべく今何をすべきなのかを思考する材料として、公認会計士でITエキスパートとしてフィリピン政府で働くマヌエル・オディロン・フォーテス氏をゲストスピーカーとしてお招きし、将来に備えるとはどういうことかについてお話をいただきました。JFCたちに、職業診断ツールを通じて世の中には様々な職業があること、自分たちがどのような職場や職種に適性があるのか、そして、どのような将来を進むのかは自分次第だということを知ってもらえたと思います。

最後のセッションは「夢再設定」として、JFC1人1人に、上記の職業診断の結果や、フォーテス氏の話参考に、自分の夢について改めて考え直してもらいました。まずはワークショップの最初に自分がグループでシェアした夢が本当に将来自分がしたいことなのかを考えたおしてもらいました。そのあと、改めて認識した自分が将来本当にしたいことを達成するには、自分が一年後どのような状態になっていないといけないのか、そして一年後の理想状態を達成するために明日から何をすべきなのかを考えてもらい、それを紙に書いて全体の場で一人ひとり発表してもらいました。彼らは自分の将来についてよく考え、それに向かって何をすべきなのか、その達成への道を1年後、今、という順に描くことができました。また、将来の夢が定まっていなかった子供も、最初よりは少し具体的に道を描くことができました。

準備を始めて早1か月、何度もインターンズでミーティングを開き、時にはぶつかりながら、なんとかワークショップを実施することができました。今振り返ると、反省点が多々あり、JFCたちやお母さんたちからいろいろなことを学ぶことができました。今回ワークショップを通じて得た学びをこれからの人生にもしっかりと活かしていきたいと思います。

(文責：加波拓真、河野尚子)

